

口ロナ第6波 高リスク者守るには

東京など13都県に出されてい
る「まん延防止等重点措置」は
延長が必至の情勢だ。

流行の「一クラウドを期待す
る声もあるが、予断は許されな
い。同じオミクロン株でも感染
力が強いとみられる別の系統が
見つかり、人の移動や飲食の機
会が増える年度末も近づく。
課題の一つに向き合って、
着実に解消していく」として、
の第6波を乗り切りたい。

ワクチンの追加接種について
岸田首相は先の、「1日10
0万回」の目標を掲げた。自治
体との連携を密にして、先進国
では際立つて遅い現状を、速や
かに是正する必要がある。

全国の重症者は昨年9月以来
となる1千人を超え、死者の数
も高い水準にある。感染が若い
世代から高齢者に広がり、ロコ
ナに特徴的な肺炎が見られなく
ても、持病を悪化させる例が目
立つ。ピークから遅れて入院患

者や重症者が増えるという経験
に照らせば、これからさらに厳
しい局面に差しかかると覚悟し
なければならない。

発熱外来が混雑して、検査や
診察の予約がとれない。自力で
検査よりもキットが入手で
きない。そんな話を多く耳にす
る。検査を省略し、症状などか
ら「みなし感染者」として扱っ
たり、自主検査で陽性と出れば
診察抜きで回家療養を始めたり
する運用も始まった。

いずれも急場をしきぐ苦肉の
策だ。不安に思う人が受診でき
ない事態は避けねばならない。
キット不足の解消と外来診療の
拡充に手を尽くすべきだ。

後藤茂之厚生労働相は先週、
中川俊男日本医師会長と会談。
発熱外来として都道府県に指定
された3万5千の医療機関のうち、
その実態を積極的に公表し
てくるのは約7割こととなり、
一部に患者が集中していると

も聞いている」と述べた。

現下の状況で、なお診療に後
ろ向きなどのがあるとすれば
看過できない。会員への働きか
けを強めるなどして、医師会も
改書に努めもらいたい。

学年・学級閉鎖や休校の措置
が、全国で広がるなか、政府の
分科会は先週末、臨時休業につ
いて「学びの保障や心身への影
響等を踏まえ、慎重に検討する
必要がある」と提言した。休校
となれば、子どもはもがくん、
保護者・地域も対応に追われ
る。自治体は難しかじ取りを
迫られるが、弊害を最小限と
どめる工夫が求められる。

どんな措置をとればいいのか
「正解」を見いだせない状況が
続くが、忘れてならないのは、
重症化リスクを抱えた人々を社
会全体で感染から守るという視
点だ。職場、学校、家庭での感
染予防の取り組みが、これまで
にも増して重要になっている。